

2 竹田和平さんとの対談

この対談は2008年2月12日に、私が発行人となっている「インベストライフ」誌掲載のために行われたものである。百社以上の上場企業の筆頭株主になっている方との対談で、心地よい緊張感とワクワク感を携えて、竹田本社にお邪魔したことを今でも覚えている。初めての面会に竹田和平さんの温かい握手で出迎えられた。作務衣姿の氏の温かいオーラに包まれつつ対談は始まった。

◎瞑想と投資

岡本 私は現在、澤上さんなどとともに日本に本格的な長期投資家をたくさん増やそうと、クラブ・インベストライフという活動を行っています。個人投資家が経済的に自立すること、そして良いことのためにどんどんおカネを使って、豊かで幸せな人生を送ってほしい。そんな手助けができればと思っています。

竹田 そうですか。それはある意味、私がやろうとしていることと同じですね。私はいま、「貯徳旦那道」というのを提唱しています。

投資家というのは、経済自由人ですよ。自立している。そういう人が幸せになる。そして発展していく。私はそれを問答という形でやっているんです。みんな意見を出しあって、議論していく。私が一週間に一回、「貯徳旦那道とは如何？」というような題を出すんです。実は、岡本さんの『瞑想でつかむ投資の成功法』（総合法令出版）という本を読ませてもらいました。瞑想と投資というセットは初めて聞きましたが、それを読むと、私の目指しているところと同じだなと思ったんですよ。やはり、日本は徳のレベルを上げないといけない。モノばかり持って、心が伴わないと破壊が起こってしまいますから。

岡本 「物心一如」という言葉があるように、モノに心を込めることが大切なのではないでしょうか。おカネは、心と一緒に回っているものです。徳を貯める「貯徳」とは、すばらしい言葉ですね。

竹田 「器」ということがあります。器に水をもっと入れたければ、器を大きくしなければならぬ。今生の人生は、来世の人生を送るために器を大きくすることです。また、「天知る、地知る、我も知る」ともいいます。悪いことをすれば、それを一番、分かっているのは自分であると。昔はこういうことが普通に言われていました。それが代々、伝えられて良い作用をしていたのでしょう。

いまは核家族になったので、その伝承ができなくなっている。みんな、今の人生がすべてだと思っている。来世も過去世もないと。だから物事の見方が短視的になり、今さえよければいいと思ってしまう。物理的にはそれでよくても、精神的にはみんな不安になっているん

です。本当は、人間はどんなときも希望がなければ生きていけない。

岡本 そのとおりですね。

竹田 私は20数年前から、日本の歴史上の偉人を百尊として勉強してきました。それから自分が、少しずつ方向転換してきたように思います。百尊を思うということも、瞑想的なところがあるんですよ。

岡本 瞑想というのは、自分自身の枠をどれぐらい広げられるか、自分の時空をどれぐらい拡大できるかということですよ。ですから歴史上の人物に思いをはせると、自分の枠も広がるのでしょうか。心が大きくなるというか。

竹田 モノが充足してきたら、それしかない。

◎ありがとう百万遍

岡本 人のため、将来のためになることをするというのは、まさに投資ですね。

竹田 そうです。短期的には感謝という形で帰ってきます。これは、おカネには代えがたい喜びです。

また、長期的にみてもすごく大きな投資です。長期的なりターンは自分に戻ってくるのではなく、社会に還元される。教育などは良い例です。私のやっている貯徳問答講というのは徳を蓄えましょうというものです。それを問答の形で行うんです。

それから、3年前から「ありがとう百万遍」という運動を実践しています。毎年、「ありがとう」を百万回唱える。これも瞑想と似ていますね。大自然のすべてに感謝する。空気があるから生きていられる。緑があるから、太陽があるから存在できる。こういうように、すべてに「ありがとう」「ありがとう」と感謝する。そうすることで、自分自身を脱皮できるんです。

岡本 「ありがとう」というと相手が喜ぶ。相手が喜ぶと自分がうれしい。自分が喜ぶと相手もまた喜ぶ。

竹田 そうです。瞑想の目的である「天とつながる」という感じが、「ありがとう」を唱えていると出てくるんですよ。天とつながって「天命」ということを感じる。「これ天命だよ、すごいよ、ワクワクだよ」と言いたくなる。

ありがとうで、自我を解放させているんでしょうね。解放することで、代わりに天が入ってくる。

岡本さんの本に「小さい意識は大きい意識に支配される」ということが書いてありましたが、まさにそういうことなんだなと思いました。大きい意識を持って何かをすると、みんなが参加してくる。意識が小さいと、誰も参加してこない。

岡本 そうですね。

竹田 貯徳問答に私はいま、講生という立場で参加していますが、問答を始めて1カ月ぐら